

里山防災林整備 神戸市北区大原・山田地区 森林整備計画案

2019年12月1日

1. 本事業地の現状と課題

◆現状

- ・山麓部、斜面は非常に急傾斜となっており、緻密で堅い地質特性から、表土も非常に堅く固結しており、表土流失も見られる。
- ・各森林はシロダモ、アオキなどが優占するなど、照葉樹林化が進んでおり、林内は非常に暗くなっている。
- ・特に、コナラ・アハヒキ群集やスギ群集で顕著であり、暗くなった林床には、植生がほとんど発達しない。
- ・北東部の民家の真山斜面には多くの危険木が確認され、他にも電線などに被害を及ぼす危険木も数本確認された。
- ・ニュータウン造成時に排水路などが整備されており、危険な荒廃渓流はない。
- ・シカの生息が見られないため、多様な植物相(林緑部に種が多い)を有している。

◆課題

- ・山麓部の急傾斜地における表土の流失。
- ・シカの食害はないが、コナラ林、スギ林における照葉樹林化による林床植生の劣化。
- ・山麓のクズ群集の対応(景観的に好ましくないが、管理するのも困難であり、どのような対応が可能か検討する必要がある)。

2. 森林整備ゾーニングの考え方

- ・地元の見解や希望を取り入れ、整備後の地元による利用、維持管理を推進できるよう、管理歩道を含めた整備とする。
- ・ニュータウン造成時に排水施設が充実していること、土砂災害特別警戒区域指定箇所では、兵庫県による急傾斜地崩壊対策事業がすすめられるため、今回は森林整備に重点を置く。
- ・植生ごとに課題、方針を検討し、その優先順位を検討する。

シカ、アハヒキ、コナラ、クズ

3. 森林整備ゾーニング(案)

- ・下表に各植生の課題と整備方針および優先順位の検討結果を示す。
- ・この考えをもとに、右図のとおり森林整備計画案を策定した。

表 各植生の課題と整備方針

優先度	群集名	現状課題	整備方針
高	コナラ・アハヒキ群集	亜高木層に常緑樹のシロダモが優占し、林内は暗くなり、林床植生は貧弱である。	林床植生の整備を促し、表土の保全を図るために傾斜的に整備対象とする。また、種多様性の保全および市民の活動の場とする。地元の利用が考えられる場所には、花木を植栽する。
高	スギ群集	管理がさわれておらず、スギの生育密度が高く、樹形も不揃いである。亜高木層にはシロダモが優占しており、林内は暗くなっている。	林内の雑木、特に亜高木層のシロダモを除去し、整ったスギ群集に整備する。伐採による急傾斜地の表土保全を図る。
高	スギ・エノキ群集	雑木林内にスギが実生で侵入し、現在の混生する植生になつたものと思われる。	林床への日照確保、植生再生を目的に整備を実施する。スギ、エノキの混交林とし、常緑低木の除去を行い、明るい林を目指す。
中	モウソウチヂリ群集	放棄竹林であり、枯損木、倒木が多い。ただし、谷筋で暗い環境のため、竹の活力は弱く、拡大傾向は少ない。	周辺森林へのタケの拡大を防止する必要がある。竹やこんどで利用するため、適度に間伐を行い、利用し易い竹林へと整備する。
中～低	クズ群集	クズが一面を覆い尽くし、景観上好ましくない。造成された1985年以降、森林が成立していない。	整備当初に全面を刈り取り、倒木を整理する。また、表土保全の土留柵を設置する。柵には花木を植栽し、遮蔽、修景的な機能を持たせる。
低	クナギノミズキ群集	不安定な場所を特徴付ける植生であり、第2低木層でアオキが密生し、林床は非常に暗くなっている。	第2低木層でアオキが密生していることから降雨による林床への影響が少ないので、樹體的な整備は実施しない。



